

式 辞

吹く風は暖かく、春の装いを感じる季節となりました。

小学校六年間の教育課程を終え、卒業証書を受け取った五十三名の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。

私が皆さんと過ごしたのは、小学校生活の最後の一年間だけでしたが、この一年間は、とても特別な一年だったと思います。

新型コロナの影響を受け、ようやく学校が始まったのが、六月一日でした。楽しみにしていた遠足、プール、学芸会、部活動の大会や音楽会は中止となり、運動会も延期し、半日での開催となりました。最後の一年なのに…とがっかりする気持ちもあったかと思います。

しかし、このような状況の中でも、皆さんは、この神戸小学校の最上級生としての自覚をもって学校生活を送ることができました。

私が常日頃、皆さんの行動の中で、一番素晴らしいと感じているのは、皆さんの「あいさつ」です。「こんにちは」「おはようございます」廊下で出会うと必ず大きな声が飛んできました。それは、コロナ禍の中で行先、交通手段を変えて出かけた修学旅行でも同じでした。皆さんの元気な挨拶には、旅館の人も感心をしていましたし、何より、神戸小学校の校長として、一緒に行った私も、とても誇らしい気持ちになりました。

ここで、そんな皆さんの門出を祝い、次の言葉を送ります。

「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」
江戸時代中期、米沢藩の藩主上杉鷹山の言葉です。

「為せば成る」わかりやすくいうと「やればできる。できないのは、絶対にやるぞと思ってことに望まず、『どうせできない』とやる前からあきらめてしまうことが原因だ」という意味です。

これからの人生は、決してまっすぐな道ばかりではありません。苦しいこと、つらいことにも出会うことでしょう。そんなときにも、決してあきらめず、この「為せば成る（やればできる）」の精神でたくましく困難に立ち向かっていってください。

皆さんの後ろには、皆さんの幸せを願い、これからもずっと皆さんのことを応援している神戸小学校、そして、ここまで指導してくれた先生たちがいることを忘れないでください。

最後になりましたが、ここまで温かく子供たちを育て、見守っていただきました、保護者の皆様、そして、地域の皆様、本当にありがとうございました。そして、おめでとうございます。本日を持ちまして、小学校の役目を終えさせていただき、地域の宝である子供たちを皆さまにお返しいたします。

令和三年三月十九日

神戸小学校長 矢野正明